



久しぶりにお会いした松本さん。顔艶よく元気はつやつ！

で出会った松本正さんを訪ねてみました。

今年で94歳になる松本さんは寺迫地区で最高齢の翁です。松本さんが生まれた昭和6年に満州事変、同11年に二・二六事件、昭和12年に日中戦争が起き、尋常小学校の卒業前には長崎へ原爆が投下されるなど、幼少期は戦争の最中で育ったそうです。「現在の文化会館がある場所に尋常小学校があつてね、そこから島原方面の空に現れたきのこ雲を見て、ただ事ではないと思ったことを鮮明に覚える。後になってそれが原爆投下で、恐ろしいほどの犠牲者が出たことを知ったとよ」と振り返ります。

今のこの時代が94歳の翁の目にはどう映っているのでしょうか。「どこかでまだ戦争はありよる。今も昔も変わらず、なかなか生きづらい世の中かもしれない。ばつてんメジャーの大谷の活躍を見ると、元氣が出るといふ」と笑いました。



花栽培と野菜作りを楽しんでいる岩岡淳子さん

松本さんの家のすぐ近くで、手入れが行き届いた庭のある家を見つけました。サルビア、マーガレットなどの花々と、イングリッシュガーデンのような菜園が広がります。

「菜園は主人のエリアで、毎年農事メモを取って、季節ごとに野菜を育てています。他に実家の畑にもいろんな種類の野菜を栽培しており、夫婦で畑仕事に夢中です」と話してくれたのは岩岡淳子さんです。

岩岡さんはみそも手作りするそうで、晩秋になると仕込みが始まりま



上/岩岡さんが友人からいただいて大切に育てているという「オオムラサキツクサ」。中/収穫したばかりのグリーンピースはピースごはん。下/岩岡さんが毎年、晩秋に仕込むという手作りみそ

す。「これからの季節は梅仕事ですね。こうして季節ごとの仕事をするのが楽しみです。夫も私も第2の人生は日々楽しく、忙しいんです」と話します。

収穫したばかりのグリーンピースを広げ「今夜はピースごはん。これ以上の贅沢はありませんね」と岩岡さんは目を輝かせました。

文化会館の近くでも、見事な和風庭園を見つけました。主の今村文子さんは「亡き夫が残した庭です。地震で自宅は被災しましたが、庭は無事で涙が出ました」と話します。年に2回ほど庭師さんに手入れをしてもらう他、草取りやちょっとした剪定は自分で行うそうです。



「庭いじりが大好きで」と話す今村文子さん



手入れが行き届いた今村さんの和風庭園

「ナンテンやイチヨウの盆栽も育ててらんです。植物の世話や庭いじりが大好きなんです」と楽しそうに笑いました。

「シロツメクサの花かんむり

寺迫には秋津川河川公園がありま

す。秋津川の流れをすぐ近くに眺めることができ、春はサクラの名所として多くの人が訪れます。

古代ハス池ではハスより先だつてイエローアイリスが美しい花姿を見せています。公園内にはシロツメクサが咲いていました。子どもの頃を思い出して花かんむりを編んでみました。



上/秋津川河川公園に咲くイエローアイリス
左/懐かしい花かんむりを作ってみました



木山城趾の高台に立つと、緑風が渡りました



木山城趾の南側に再建された「山伏さん」。山野さんが手掛けました

城趾内の南側に祭られているのが「山伏さん」。お堂はまだ新しく、熊本地震後に再建されました。手掛けたのは寺迫に住む、山野久行さんです。

「地震で地域の守り神様のお堂も被災しましたからね。『早く再建してあげたい』という声が多く届きましてね」と話す山野さんは他に寺迫

の交差点に佇む「えんま堂」や「寺迫観音堂」の再建も手掛けました。

長年建設業を営んできた山野さんは、還暦を機に家業を息子さんに譲って勇退。その後は大好きな海釣りや旅行、そして今は料理にはまっています。

「妻が病気をしたことがきっかけで、私が食事を作り始めました。洗濯、掃除もしますよ。家事はなかなか面白くて、段取りや献立を考えるのが楽しくかですな」と言いつて台所に立つて見せてくれたのが手作りのキ



楽しそうに台所に立つ山野さん



楽しい話を聞かせてくれた山野さん夫婦



山野さんが手作りの木製の皿やお椀。工芸品も顔負けです

料理の先生は ユーチューブ

寺迫にある木山城趾公園の坂道を歩いていたら、ふわりと緑風が渡り初夏の匂いを連れてきました。

さて、木山城趾は後木山氏の居城とされる城跡で木山城は15世紀末に

ちょっとそこまで！

わがまち散歩

Wagahachi Sampo




vol.48

寺迫・下寺中灰塚 編

今回の散歩は寺迫・下寺中灰塚地区です。まずは、かつて木山城がそびえた木山城趾公園からスタート。

久しぶりの笑顔や、はつらつとした日々を送る人たちに会いしました。